

# 竹川病院

飯田 志帆 (リハビリテーション部 / 作業療法士)

功 績	先方の求めに応じ作業療法士として急性期病院へ出向し、脳血管疾患患者紹介増に貢献した功績
推 薦 者	リハビリテーション部 可児利明
推 薦 理 由	経験したことのない急性期病院への出向に立候補し、信頼される作業療法を提供することで、「あなたのいた病院でリハビリしたいわ」と多くの患者さん言っていたこと。  その経験を持ち帰り竹川病院回復期リハビリテーション病棟に還元したこと

## 内 容

作業療法士飯田は竹川病院に新卒で入職し4年間回復期病棟に勤務し経験を積んできました。5年目となる4月より近隣急性期病院へ半年間出向していました。

近隣の急性期病院に新たに脳神経外科医が着任し脳外科の手術件数を増やし、力を入れていく方針があることを地域の連携会議で知りました。脳外科医師と連携を進めて行く過程で相談を受けたのは、自院の常勤作業療法士が1名しかおらず、竹川病院から作業療法士を派遣してもらえないかというものでした。

当院では以前にも近隣病院のリハビリテーション専門医より同様の依頼を受けた経験があり、作業療法士を半年間派遣したことがありました。急性期病院では慢性的に作業療法士の不足に悩まされているようです。

当院リハビリテーション部セラピストは、これまでも法人内施設へ多くのスタッフを派遣したり、出向することで回復期病棟以外の経験を積むことができています。それは主に回復期以降の生活期が多くを占めていましたが、今回は近隣の急性期病院からの依頼に応える形となりました。

今回、経験したことのない急性期病院での勤務に躊躇することなく「行きます!」と手をあげてくれたのは、飯田の積極性と、急性期での作業療法を経験したいという高い志があつてのことでした。

出向半年間の仕事ぶりは先方でも高く評価していただけたと共に、患者さんからは、介入時に「あなたのいた病院に行ってリハビリしたいわ」と言っていたことも多くありました。

こうした仕事ぶりにより病院同士の連携が更に深まり、当該急性期病院からの当院への脳血管疾患患者紹介数が昨年度年間13件だったのに対して、今年度は上半期だけで15件と大幅に増えるという成果につながりました。彼女の取り組みにより地域の中で「信頼され、応えることができる病院」として認識いただけたからだと感じています。

飯田の出向に関しては、決してマンパワーが充足しているとは言い難い当院作業療法科において、地域での役割を果たすために派遣を即決した作業療法科長の英断や、快く送り出した作業療法科スタッフ皆で力を合わせた成果でもあると感謝しています。

これらのことより理事長賞にふさわしい功績として理事長賞に推薦させていただきます